



船橋市議会議員

ながの春信

地元前原からパワフルに発信します!!

船橋清風会

**長野** 本日は公立小中学校における不登校児童の復学についてご質問いたします。現在、私は、「社会福祉士」として障がいをお持ちのため様々な障壁にぶつかりお悩みの方、また社会に溶け込めず孤立されている方などの相談、援助をさせて頂く中で、小学生、中学生の不登校で悩む保護者の方からも多く相談をお受けいたします。以前から多くの先輩議員より質問いただいておりますが、私からは学習支援やフリースクールという選択の話ではなく、復学するためにどうしたらいいか、という視点からこの不登校の問題についてお尋ねしたいと思っております。

文科省は2014年度の不登校の小中学生の総数は全国で約12万3千名と発表されました。そのうち小学生が約2万6千名、中学生が約9万7千名とのことです。この中には別室登校や母子同伴登校などは含まれていませんので、学校生活に不応を起している子どもはそれ以上に上ります。現在不登校となった子ども達の選択肢として、民間では復学支援機関などありますが、公立学校などの公的機関ではスクールカウンセリングがあり、大きな役割を担って頂いております。その外には、教育委員会が運営する学習支援である適応指導教室、不登校の子ども達の居場所を学校以外のところに設けるフリースペースなどホームエデュケーションを法的に整備するなど学校以外の選択肢を増やしていく対応は非常に重要です。しかしこれら学校以外の選択肢の充実、記憶に新しい川崎で起こった中学生殺害事件のような深刻な事態に状況にある子が、命の安全性の確保のために学校教育以外を選択することには有効であると思いますが、すべての不登校の解決法をそこに求めてしまうのはいささか違和感を感じます。不登校には様々な理由があり、様々な背景があります。それを体系的に分類することはあまり意味がなく、不登校の数だけ原因があり、解決策があると考えて取り組む必要があるのではないのでしょうか。

以前の先輩議員に対する答弁において、担任が家庭訪問を行い、学習課題を出して採点したり、自分の教室以外の別室に登校ができる児童生徒に対しては、特別のカリキュラムをつくり学習指導をするなどの支援を行っており、と「担任が中心となつて学習支援を行う」といった答弁がありました。現在、公立小中学校において、不登校となる段階

平成28年第2回定例会 — 教育委員会への一般質問 —  
チーム学校による復学支援について  
H28.6.9

不登校となった段階などの各段階において、学校復帰についても担任が対応しているという認識でよろしいでしょうか。また担任教員は、生徒、保護者、関係者を含めてどのようなやり取りを行い、最終的には復学といった解決まで導こうと努力されているのでしょうか。お尋ねいたします。

**学校教育部長** 不登校児童生徒の学校復帰に向けた対応についてお答えします。不登校の原因、状況や背景、また児童生徒を取り巻く環境は個々に違いがございます。各学校においては、担任が中心となり、管理職はもとより、学年主任や生徒指導担当、部活動顧問などが協力し、関係機関とも連携しながら、個々の状況に応じた学校復帰に向けた取組をしております。具体的には取組として、登下校の時間を他の児童生徒とずらす「時間差登校」や別室で個別学習を実施する「別室登校」、放課後の時間帯に登校を促す「放課後登校」など、児童生徒に状況に応じた対応により、学校復帰に向けて取り組んでおります。

また、不登校児童生徒の学校復帰には保護者の協力が不可欠であると考えております。保護者の考えや家庭環境も様々ですので、教育委員会として、保護者との連携をより一層密にして、お互い協力して対応に努めるよう、各学校に対しております。

**長野** 現在、公立小中学校の教員の仕事は多岐にわたっていると言います。授業以外に生徒指導、部活動、学校行事があり、それに加え、心理・福祉面での支援、いじめ、不登校などの生活指導、さらには特別支援教育への取り組みや充実、また外部への説明責任、通学路安全対策、家庭訪問、そして保護者対応などもあり、その役割は拡大し、多様化していると思えます。このような状況で結果的に子どもと向き合う時間は割かれ、本来の授業等に専念することが出来ない状況があると感じます。学校に求められる役割、学校が抱える課題が複雑化、多様化するに伴い、本来教員が担わなければならない心理や福祉等の専門性が教員に求められるようになっております。教員側から見ると、不登校になった理由すら分かっていない不登校というものが多く存在しているものと思えます。

不登校のカウンセリングには児童生徒の臨床心理に関して専門的な知識、経験を有するスクールカウンセラーが行うことも多いと思

います。これは「来談型支援」です。この来談型支援が不登校の子どもたちすべてに効果があるとは思いません。なぜならカウンセラーが問題解決を行うわけではなく、相談者の中にある問題解決能力を引き出すことを目的として相談者自身が問題解決に取り組むことを基本としているからで十分と言えます。不登校となる前に、勇気をもって絡まった糸を解決するという意思をもって相談してきた人は対象になりますが、昼夜逆転の生活を送っている方や、そもそも不登校になったから、学校に来ないわけですから来談型での対応は意味がありません。社会福祉士、精神保健福祉士といったソーシャルワーカーによる訪問型のカウンセリングなどアウトリーチ型支援により児童生徒が置かれた様々な環境問題へ働きかける必要があるわけですが、不登校の復学支援で大切なことは、保護者の養育姿勢といたした否定的な意見のやりとりや抽象論を語るのではなく具体的な方策を考えることです。それを教員のみでできるわけがなく、そのためには教員以外の専門スタッフとして、SC以外にスクールソーシャルワーカー、ICT支援員、部活動外部指導員、放課後や土曜日における学習、補充学習の支援に携わるサポートスタッフなどを含めた学校を一つのチームと考え、「チーム学校」として力を合わせ、時には役割分担を行うことで不登校復学支援に取り組む必要があると思いますが、ご見解をお聞かせください。

一昔前のようにすべての役割を一人のクラス担任教員が担っていた時代から、大きく社会は変貌し、その転換期を迎えている今、この「チーム学校」に本気で取り組む必要があると思えます。この「次世代の学校・地域」創生プラン「チーム学校」への充実についてどのように取り組んでいるのでしょうか、お答えください。不登校には様々な理由があり、様々な背景があり、不登校の数だけ原因があり、解決策があると考えます。また一度不登校を経験した子どもはすでに学校を休めることを知っています。多くの子ども達が嫌々ながらも乗り越えて成長している経験を積むといった将来に続く大きな課題を残します。個々の状況に応じて例外はあるにしろ、復学ができるものならそこへの導きが望ましいと考えます。この不登校復学に対してどのような見解をお持ちか。また今後の取り組みについてご答弁ください。

**学校教育部長** 二門目にお答えいたします。先程もご答弁いたしましたとおり、不登校児童生徒支援については、担任が中心になり、学校全体で対応しております。「チーム学校」

と国が示すとおり、校長のリーダーシップの下、教職員や様々な専門スタッフが適切に役割分担をすることで、担任の負担を軽減するとともに、不登校児童生徒の対応を担任ひとりでは抱え込むことが無いようにする必要がありと考えております。

本市では、部活動顧問の複数配置や外部指導員派遣を行ったり、外国語指導助手や英語指導コーディネーターを派遣したり、学校司書を全校へ配置するなど、担任の負担軽減を図り、子供と向き合う時間の確保に努めております。

また、スクールカウンセラーの全校配置により効果的な不登校対応ができる体制作りを目指すと同時に、関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒の学校復帰に向けた支援をおこなっております。

ご指摘のアウトリーチ型支援につきましては、県教育委員会が葛南教育事務所管内に配置しているスクールソーシャルワーカーや訪問相談担当教員の積極的な活用を図っているところでございます。

今後も不登校児童生徒の学校復帰に向けて、担任を中心とした学校体制で取り組むとともに、専門性の高い人材の活用や各種関係機関との連携を図り、個々に応じた対応に努めてまいります。

**長野** ご答弁ありがとうございます。復学支援を実行するうえで一番大切なことは、専門性が高いといわれる「社会福祉士」などの資格があるといった資格の有無ではなく、その対象となる生徒、保護者にどこまで向き合えるかといった資質の問題が大きいのだと思っております。対象者一人一人とのラポールを形成するには、それを担う担当教員に心の余裕、体力の余裕、時間の余裕などがなければ成立しません。

そしてこの問題には抜本的解決はありません。一人でも多く、復学支援に真剣に取り組んでいける人材を生み出すこと。これが今の教育現場に求められることであると強くお願い申し上げます。私からの質問を終わります。



# 京成電鉄線 新津田沼駅～前原駅

## 立体化に向けて取り組みます

●平成28年第1回定例会において陳情採択  
※陳情書から抜粋  
陳情者／船橋市前原自治連合協議会

### 【理由】

一、JR津田沼駅北口十字路を通る県道船橋・長沼線は船橋市から、稲毛区に至る県道（主要地方道）であります。現在京葉道路の武石インター大型車通行不可のため、花輪インターを上下方面から出入りする大型車等を含め自動車等の通行量が非常に多く、新京成電鉄上下線が頻りに運行する朝夕においては前原6号踏切の遮断によって長蛇の渋滞が引き起こされています。また津田沼十字路との距離も約100mと近いこともあり、一回の信号では渡れない自動車等などが、無理に津田沼十字路交差点へ侵入することにより歩行者等に危険が生じる恐れがある交差点（津田沼十字路）となっております。

二、国道296号線（成田街道）は千葉県の船橋市から匝瑳市を結ぶ主要国道であります。前原地区付近は、車道が片側1車線であり、歩道も一人が通れる幅しかなく、歩行者のすれ違いが困難な狭い道路となつています。国道296号は花輪インターを上下方面から乗り入れる大型車両を含め自動車の通行量が非常に多く、慢性的な渋滞が引き起こされています。そのうえ、新京成電鉄上下線が頻りに運行する朝夕などは前原3号踏切の遮断により更なる渋滞が引き起こされております。

三、船橋市立前原小学校の通路にある前原5号踏切付近は、朝になると通勤・通学のバイク、自転車、そして国道296号線の抜け道として多くの車両が通ります。その中で前原小学校へ歩いて通学する小学生も加わるため、一旦踏切が閉まると、多くの方々が溢れていきます。そして踏切が開くと、変則5差路も影響して、急ぐ自転車や歩行者、通学の小学生などの接触などが後を絶ちません。



前原3号踏切



前原5号踏切・変則5差路



前原6号踏切・津田沼十字路

周辺の関係地域の宅地開発も著しく、大型車両、自動車、自転車、バイク、歩行者等の通行量は日に日に激しさを増しています。交通渋滞は交通車両事故、人身事故の原因となります。JR津田沼駅南口から前原小学校へ通学する生徒は、津田沼十字路交差点を通り、またどうしても踏切を横断しなければならぬ生徒も多数おります。小学生を含めた住民の安全のためにお願いしたく存じます。

大変大きなお願い事ではありますが、承知しており、直ちにどうにかできる問題ではないことも理解しております。しかし、これから20年、30年先を見据え、地域の発展に必ずや寄与するものと思ひ、この度、前原自治連合協議会の前原親交会、藤崎台町会、前原あずま会、宇津木堀東町会、宇津木堀西町会、前原西三会、海松台町会、中台町会、前原東部町会、前原睦自治会、前原信和自治会、前原西一丁目札幌町会、前原東フレッシュタウン自治会、朝日パリオ津田沼自治会、船橋市営前原団地自治会、中野木273町会、中野木町会、前原団地自治会、前原西1丁目協進会、前原西六丁目睦町会の自治会、町会が本陳情の趣旨に賛同してございます。現在の前原地区は人口増、宅地開発増もあり、また鉄道周囲にも建物が密集しています。現地を改めて調査され、新京成電鉄線の新津田沼駅～前原駅間を鎌ヶ谷や船橋でも行われました立体化、もしくは地下化への対応を進めていただきますことをここに陳情いたします。

## 待機児童解消緊急アクションプラン実施の効果をご報告します

待機児童の増加を受け、平成27年6月に策定した市の緊急対策。「保育の受入れ枠の緊急拡大」「保育士の緊急確保」を2本柱とし、平成27・28年度の2ヶ年で保育所等整備の加速化、既存施設の定員拡大、認証保育所の拡充、保育士の就職促進などの多様な施策を組み合わせ、待機児童の解消を目指す。

### 緊急対策① 保育の受入れ枠の緊急拡大

（1・2歳の待機児童715人分を中心に保育の枠を緊急確保します。）

#### 1. 認可保育所・小規模保育事業の効率的整備

認可保育所・小規模保育事業等17か所1,015人分（平成28年4月開設分）を整備

#### 2. 既存施設の定員拡大

認可保育所7施設181人分（うち平成28年4月：3施設80人分）の定員拡大

#### 3. 市の認証保育所制度の拡充

7施設を新たに認証（114人分の認証保育所定員を拡大）

#### 4. 認定こども園への移行支援

幼稚園1施設、認証保育所1施設が認定こども園へ移行

#### 5. 幼稚園における一時預かり事業の促進

一時預かり事業（幼稚園型）平成28年4月現在実施園18園

### 緊急対策② 保育士の緊急確保

（船橋市内の保育所等で働く保育士を緊急確保します。）

#### 1. 公立保育所の保育士不足解消に向けた取組み

公立保育所の常勤職員の採用増および臨時職員賃金の増額

#### 2. 私立保育所等の保育士の処遇を向上

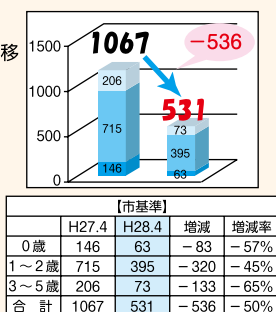
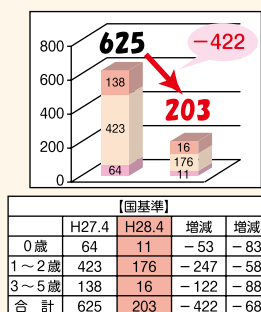
平成28年度より補助額を増額

#### 3. 保育士のための支援施策

保育士宿舍の借り上げへの補助制度創設

#### 4. 保育士確保に向けたさまざまな取組み

修学資金貸付制度実施/保育士確保キャラバン（関東近郊の保育士養成学校等へ訪問・説明会実施）/保育士就職支援研修会・私立保育園合同おしごと相談会/保育職場への復帰のための実習実施



## 東部公民館建替え計画とJR津田沼駅北口の更なる活性化に取り組みます。

※要望書から抜粋  
要望者／船橋市前原商店会

JR津田沼駅北口は昭和45年6月20日に千葉県を施行者とする船橋・習志野都市計画事業津田沼駅北口土地地区画整理事業として再開発が行われ今の形となりました。今後も人口増加が見込まれる地域でございます。

その反面、当時働き盛りの方々も今や高齢となり、杖や車いすでJR津田沼駅に移動する姿も多く、この度の東部公民館建て替えに伴い駐輪場が確保されますこと、また津田沼第4自転車等駐車場の立体化に伴い、津田沼第1・第2自転車等駐車場の歩道駐輪場が解消に向かう動きに大変感謝を申し上げますとともに、今後更なるJR津田沼駅北口発展の促進について次の要望を申し上げます。

### 【東部公民館について】

- ①東部公民館建て替えにあたり、県道側からの共同ビルも含めた複合型建築物の検討。
- ②県道側に東部公民館の出入口を設け、その部分に前原交番を移動。
- ③東部公民館の設計にあたり、1階部分に大規模なピロティを設け、イベント（福祉祭り、夏祭り等）の開催スペースを設ける。
- ④平成28年4月に策定された「船橋市自転車等の駐車対策に関する総合計画」のとおり、東部公民館の建て替えの際、大規模な駐輪場を設け、現在の暫定的な津田沼駅第1・2自転車等駐車場の解消。
- ⑤新しくなる東部公民館を起点に、現在の老人福祉センター送迎バス同様、民間バスの本数が少ない中野木、札幌町会、民間バス三会など交通不便地域と船橋医療センター等を結ぶ送迎バスを運行して頂きたい。

## 津田沼線人道橋修繕工事「長寿命化修繕工事」が始まります！

経年劣化により剥がれたコンクリートの補修、鉄筋のサビ留め。塗装、階段部分のノンスリップ補修などが実施されます。



現況写真



南口と北口を結ぶ大事な線橋

町会・自治会と共に歩む 地域福祉の向上

◆カーブミラー設置

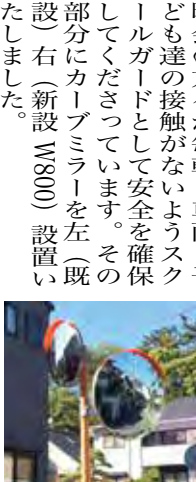
①この度町会より、クランクになったり2ヶ所にカーブミラーを設置するべきとの声を頂きました。設置が完了いたしました。



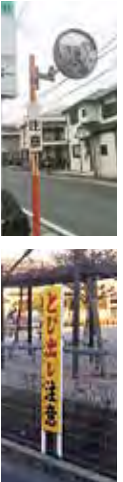
②県道69号線に出る道路にカーブミラーが以前設置されていたが、なにかが追突したのせいで、ポールも曲がりミラーも外れた状態で放置されておりました。この度新たにカーブミラーを設置し、ポールの曲がりも調整させて頂きました。



③二宮小学校の児童が通る、見通しの悪い交差点。町会の方々が毎朝、車両と子ども達の接触がないようスクールガードとして安全を確保してくださっています。その部分にカーブミラーを左(既設右(新設W800)設置いたしました。



④以前、取り付けた右折側のカーブミラーがありますが、道路手前に位置することから、見えづらかったので、この度アームをつけ、調整いたしました。また、公園とのT字路は買い物に訪れる歩行者、自転車などの往来が多いことから看板を設置し、注意喚起いたしました。



◆注意喚起看板設置

①この度、アルビス前原公園前に「横断歩道を渡りましょう」の看板、お子様用にひらがなを計5ヶ所設置し注意喚起をさせて頂きました。ご協力の程、宜しく申し上げます。市道の危険横断対策

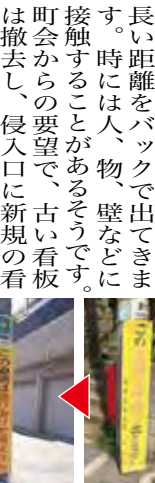


②イオン津田沼店に通じる住宅街のクランク道路について、町会からのご要望を頂き、以前クランク箇所2ヶ所にカーブミラーを設置させて頂きました。この度は注意喚起を促す看板を新たに設置させて頂き、道路を利用される際の安全を喚起させて頂きました。



◆公園整備

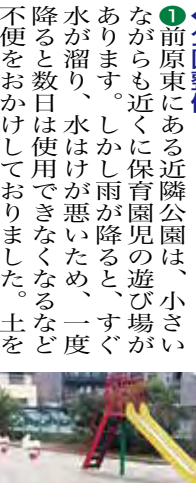
①前原東にある近隣公園は、小さいながらも近くに保育園の遊び場があります。しかし雨が降ると、すぐ水が溜り、水はけが悪いので、一度降ると数日は使用できなくなるなど不便をおかけしておりました。土を盛り、排水枘へ勾配を整地し、排水溝を清掃するなど整備いたしました。



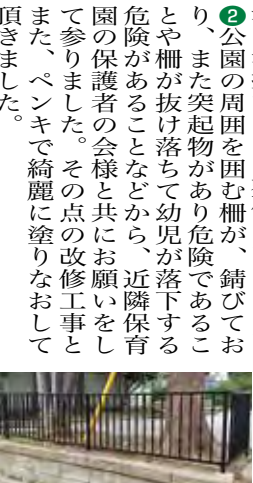
②公園の周囲を囲む柵が、錆びており、また突起物があり危険であることとや柵が抜け落ちて幼児が落下する危険があることなどから、近隣保育園の保護者の皆様と共にお願いをして参りました。その点の改修工事とまた、ペンキで綺麗に塗りなおして頂きました。



③前原西にある公園には以前は遊ぶための遊具が設置されておりましたが、経年により撤去されておりました。この度、町会の強い要望もあり新しく遊具が設置されることになりました。



④国道296号から中野木へ抜ける道に宅地と道路の高低差により、雨水を集水するグレイチングが凹んでいました。この部分に足をとられ転倒する方も多いため、この度、グレイチング部分の周囲半径約2mのア

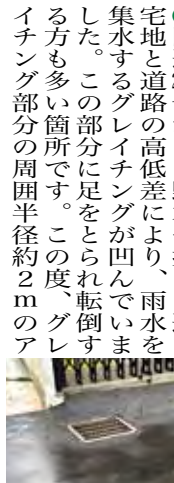


◆グレイチング不具合

①国道296号から中野木へ抜ける道に宅地と道路の高低差により、雨水を集水するグレイチングが凹んでいました。この部分に足をとられ転倒する方も多いため、この度、グレイチング部分の周囲半径約2mのア



②国道296号から中野木へ抜ける道に宅地と道路の高低差により、雨水を集水するグレイチングが凹んでいました。この部分に足をとられ転倒する方も多いため、この度、グレイチング部分の周囲半径約2mのア

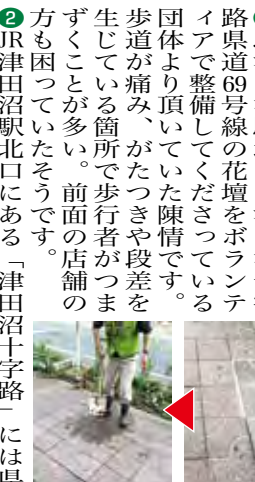


スファルトを剥がし、グレイチングを嵩上げし、周囲の高低差と合わせるように再度アスファルト舗装を施しました。

②グレイチングの一方の端を踏むと片方が跳ね上がる状態で、前原小学校の通学路でしたので、町会からもご要望いただいております。この度、不具合(がたつき)の整備工事が終了いたしました。



③JR津田沼駅北口 津田沼十字路県道69号線の花壇をボランテアで整備してくださっている団体より頂いていた陳情です。歩道が痛み、がたつきや段差を生じている箇所を歩行者がつかずくことが多い。前面の店舗の方も困っていたそうです。



④JR津田沼駅北口にある「津田沼十字路」には県道69号線が東西に通っています。津田沼十字路から新京成電鉄の踏切までの間のアスファルト舗装(車道・歩道)は、長年の大型車両等の通行により轍(わだち)が出来ていました。

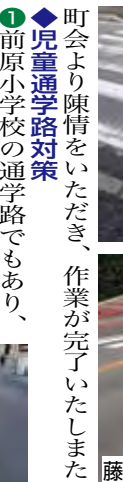


③津田沼自動車教習所と県道69号線が交差する交差点は通行量も多いため、横断歩道の白線、車両の一時停止線が消えかかっておりました。

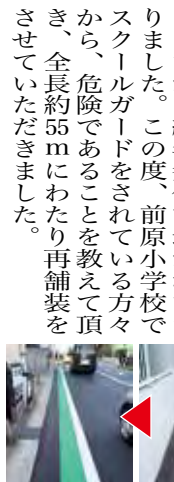


◆児童通学路対策

①前原小学校の通学路でもあり、緑色のカラー舗装が施されておりましたが、経年劣化で剥がれておりました。この度、前原小学校でスクールガードをされている方々から、危険であることを教えて頂き、全長約55mにわたり再舗装をさせて頂きました。

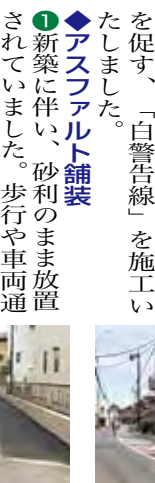


②町会より陳情をいただき、作業が完了いたしました。

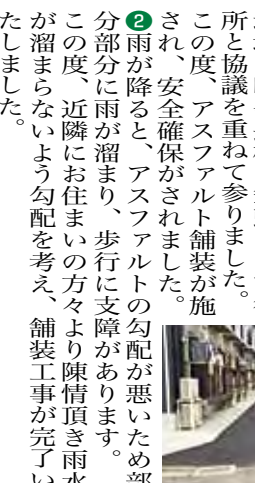


②前原東の二宮小学校通学路にある横断歩道はカーブがあり、見通しが悪く、コーナーの先に横断歩道があり、危険な横断歩道となっております。昨年に道路上にカーブを知らせる「赤舗装」を施し、この度、更に警告を促す、「白警告線」を施工いたしました。

③新築に伴い、砂利のまま放置されておりました。歩行や車両通行にも支障があることから、本地域の町会長様を筆頭に、市役所と協議を重ねて参りました。この度、アスファルト舗装が施され、安全確保がされました。



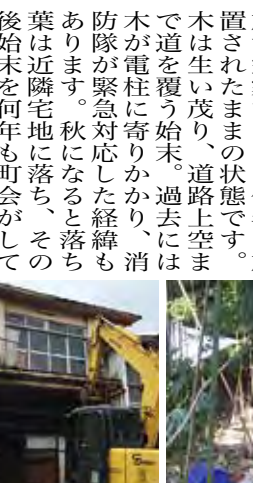
④雨が降ると、アスファルトの勾配が悪いので部分部分に雨が溜まり、歩行に支障があります。この度、近隣にお住まいの方より陳情頂き雨水が溜まらないよう勾配を考え、舗装工事が完了いたしました。



①町会の懸案事項として放置空家がありました。特に前原小学校の通学路にある放置空家で、もう何年も放置されたままの状態です。木は生い茂り、道路上空まで道を覆う始末。過去には木が電柱に寄りかかり、消防隊が緊急対応した経緯もあります。秋になると落ち葉は近隣宅地に落ち、その後始末を何年も町会がしております。この度、建物解体まで話を進めることができました。全国の空き家の総数(平成20年)は約760万戸に及び、そのうち個人住宅が約270万戸を占めており、適切な管理が行われていない住宅は、防犯や衛生などの面で地域の大きな問題となっております。

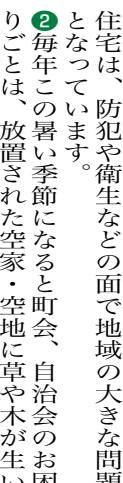


②毎年この暑い季節になると町会、自治会のお困りごとは、放置された空家・空地に草や木が生い茂り、そのまま放っておくとあつという間に背丈の高さまで草が成長します。蚊や蛇などが発生しますし、犯罪などの温床になるのではと、心配が尽きないものです。

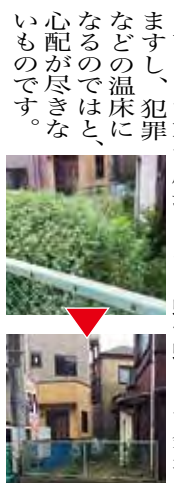


◆放置空家

①町会の懸案事項として放置空家がありました。特に前原小学校の通学路にある放置空家で、もう何年も放置されたままの状態です。木は生い茂り、道路上空まで道を覆う始末。過去には木が電柱に寄りかかり、消防隊が緊急対応した経緯もあります。秋になると落ち葉は近隣宅地に落ち、その後始末を何年も町会がしております。この度、建物解体まで話を進めることができました。全国の空き家の総数(平成20年)は約760万戸に及び、そのうち個人住宅が約270万戸を占めており、適切な管理が行われていない住宅は、防犯や衛生などの面で地域の大きな問題となっております。

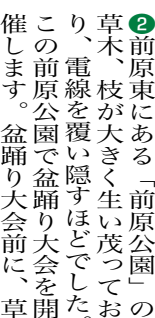


②毎年この暑い季節になると町会、自治会のお困りごとは、放置された空家・空地に草や木が生い茂り、そのまま放っておくとあつという間に背丈の高さまで草が成長します。蚊や蛇などが発生しますし、犯罪などの温床になるのではと、心配が尽きないものです。

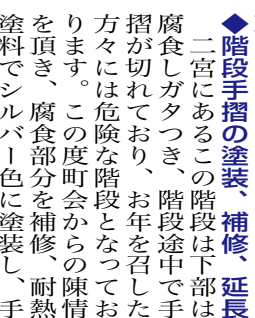


◆枝木伐採作業

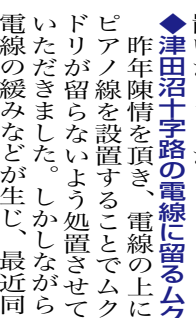
①中野木川は船橋市中央部を流れる海老川水系であり、前原西地域、中野木地域の雨水を集水する大事な河川となっております。本年も8・10月の台風に備え、作業を実施いたしました。



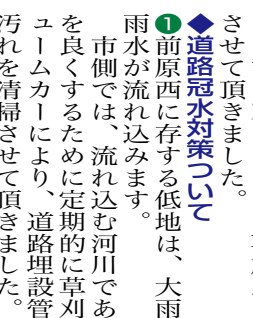
②前原東にある「前原公園」の草木、枝が大きく生い茂っており、電線を覆い隠すほどでした。この前原公園で盆踊り大会を開催します。盆踊り大会前に、草木、枝を切りたいという陳情を頂いております。



③階段手摺の塗装、補修、延長工事

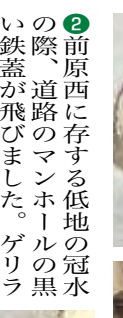


④津田沼十字路の電線に電線がぶつかって、電線の上にピアノ線を設置することでムクドリが留まらないよう処置させていただきました。しかしながら電線の緩みなどが生じ、最近同じ現象があると、利用者の方からお話を頂きました。再施工をさせて頂きました。

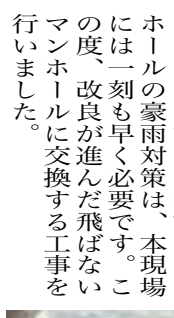


◆道路冠水対策

①前原西に存する低地は、大雨になると高台から雨水が流れ込みます。市側では、流れ込む河川である中野木川の流れを良くするために定期的に草刈を行ったり、パキユムカーにより、道路埋設管に沈殿した砂利や汚れを清掃させて頂きました。



②前原西に存する低地の冠水の際、道路のマンホールの黒い鉄蓋が飛びました。ゲリラ豪雨は以前より頻繁に起きるようになっており、マンホールの豪雨対策は、本現場には一刻も早く必要です。この度、改良が進んだ飛ばないマンホールに交換する工事を行いました。



## 平成28年 第3回定例会

### 平成27年度決算特別委員会にて質問いたしました。(以下抜粋)

#### ◆障害者就労支援事業費について

**長野** この事業を通して最終的に目指すべきは姿はなにか。

**商工振興課長** 障害者就労支援でございますが、企業開拓、実習訓練の開拓をひもめて障害者の雇用につなげるための事業展開についてです。

**長野** 障害者の一般就労につなげていくという観点から、本年度の効果はいかだったか。

**商工振興課長** 障害者実習先の開拓数は昨年の30社から48社と大きく増加している。職場実習奨励金の申請件数も170件から179件に増加するなど障害者雇用の開拓も高まっている。

**長野** この事業は例年続いているわけですが、この方たちが定着して一般就労しているのか、とか、辞めたのあればその理由はなんなのか、そのあたりの追跡は行っているのか。

**商工振興課長** 私共はあくまでも企業の方に障害者雇用をすすめて、実習先の開拓と雇用促進をすすめるべく奨励金を出して、そちらの方につなげていくということでご用意して、その中で、就労している人数は把握しているのですが、その後については把握していません。

**長野** 把握するということが不足しているということ、やはりね。

障害者が持つ特性とかを一番分かっているのは例えば支援学校の先生だったりとか、就労支援施設の職員であったりとか、障害者が一般就労するためには、一般事業所の方々の障害者に対する理解はもちろんです。一般事業所はやっぱり不安なわけなんです。障害者一人一人の特性を、しっかり説明できる方々と一緒に行って説明なり、補助を与えなければ、せっかくの事業者の心意気もいつかは萎えてしまう危険性があるんですね。結果的に障害者が継続して勤務できなくなってしまう。という結果になってしまっている。ですので、この事業だけを進めるのではなく、障害者のフォローというものも同時に進めていくということも必要だと思うので、要望させていただきます。

#### ◆障害者移動支援事業費について

**長野** この度、通学通所に使えるようになったことについては大変評価しています。

通学通所支援こちらは平成27年6月という期途中から始まったわけですが、おおよそ10か月で42名ということですが、それでもやはりこの支援を必要としている総数から考えて利用人数について市としてはどのような見解をお持ちか。

**障害福祉課長** 移動支援事業につきましては平成27年6月から通学通所に支援が必要な場合にもご利用いただけるように制度改正をしたものでございます。平成26年度は521人のところ平成27年度

は555人と利用者数が増加しており一定の成果があったものと思います。

**長野** 通学通所についてお聞きしたのですけれども、まあ例えば、年間の使用できる時間のMAXは300時間、人によってももちろん違うのだけれども、に設定されている。例えば通学通所に公共交通機関を利用し、身体障害など歩行に難をきたす方にしてみれば、30分かけて最寄り駅につき、さらに30分かけて行くとしたら往復で2時間。週5日利用は月で40時間、年間で480時間となるが、この差異180時間についてどのようにご見解をお持ちか。

**障害福祉課長** おっしゃる通りに年間300時間というところで上限が決められているわけですが、平均の利用時間は平成27年度で79時間です。いまして、年間300時間の上限一杯までご利用いただいている方は5人です。ご利用のことからいいますと、300時間の範囲で使いやすいというものと認識しております。

**長野** そのようなデータもあるのかもしれないが、ここに使い勝手の問題というものもあると思う。公共交通機関を利用する方の援助として利用できるものとなっているのですが、障害者によって外を歩くことになり負担が強いられる方、突発的に大声を上げる方、落ち着きがなく動き回ってしまう。などヘルパーが努力しても朝夕の公共交通機関では多少迷惑をかけてしまう方などという現実がある。車の移動というものはダメということだが理由はなんなのか。保護者によつては自分の子どもが公共交通機関に乗って、他人迷惑をかけるくらいなら、自分で送っていくという方も多くいる。でもその方たちも高齢になり、今までのように送って行けない年齢になる。その方たちには、明日から交通機関で行きましようと言われても長年その生活になじってきた方に対応できないという現実がある。この決算書には「屋外の移動が困難な障害者等が、通学通所の送迎の支援を受けた場合の費用助成」と明記された実施意義が述べられているが、そもそも屋外移動が困難な方に公共交通機関で移動していただくといわれてもなかなか実態と合わないのですが、そこはどのようにお考えか。

**障害福祉課長** 移動支援事業が徒歩または公共交通機関による付添いを行うということで事業内容を定めておられますので、原則的には車両による運送というのは行っていないところでございます。ただ、タクシーに利用者が同乗し、運送中に見守りなどの実支援を行う場合については、その時間については移動支援事業と算定することを認めている次第でございます。

**長野** 平成27年の決算特別委員会でもお聞きしましたが、その時の課長の答弁でも「今後も拡充していくという認識をもっている」というご答弁もありましたので今後これについては継続

#### ◆保育所運営費 障害児保育について

**長野** 19施設 53, 972千円が支出されていますが、19園の中でどのような障害をお持ちの子どもを受け入れているのか。

**公立保育園管理課長** 身体・知的、それから発達に気になるお子様が該当になります。

**長野** 障害児保育を行うことで1...1、1...3の加配の中でやっていくことだと思いのですが、この障害という枠に入ると、公立私立とも預入時間に制限があると聞きます。と言いますのは、9時から17時という基本保育時間の中で保護者の仕事の状況によつては朝7時から夜は園によつて違いはありますがその園の終園時間までの受け入れが一般児はできるが、この障害児においてはその基本時間では受け入れられないという現実があります。

障害をお持ちの保護者は、将来に対して私たちが想像する以上に不安を感じています。だからこそ子どもの将来のために正規職員で働き続けたいという思いは強いわけですが、そのような方々が基本時間では預けられないとなるとパートという形でしか働けなくなるわけです。障害児も健常児も保育所という枠組みの中では平等に扱われることはもちろんであると考えます。

「障害児保育」をする園は、基本時間を超えて

受け入れるべきだと思いますし、公立保育園はおさらだと思えます。ご見解を伺う。

**公立保育園管理課長** 個々の児童により異なりますが、例えば飛び出しをしたり他の児童に危害を加えてしまうような、目の離せない児童につきましては児童の安全を確保するため1名の保育士が付き添います。保育士の勤務時間は8時間程度でありますので、8時間を超えて預かるにはその児童に付き添う保育士はもう1名必要となります。現在保育士の確保に努めておりますが、まだ不足している状況にある中、保育士の体制を整えない限り9時から17時の間で協力いただいているわけですが、今後体制を整えられるように努めてまいりたいと思っております。

**長野** 一刻も早く、障害児保育の方たちも朝、夜と保護者様が働ける体制づくりをしていただくことを要望します。

#### ◆スクールカウンセラー事業費について

**長野** スクールカウンセラーはチーム学校の一員として、いじめや不登校への対応の一翼を担っているという認識はあるのか。

また、その成果について伺いたい。

**教育委員会指導課長** 各学校では、スクールカウンセラーを校内のいじめ対策委員会の構成員とするなど、いじめの未然防止や対応に参画しております。小学校スクールカウンセラー配置後、

## 熊本地震被災状況視察 (熊本市内・南阿蘇村・上益城郡)

28年4月22日(金)～23日(土)

4月14日・16日に発生した熊本地震により甚大な被害に見舞われた熊本市内・南阿蘇村・上益城郡、3市町村の被災状況の視察に行つてまいりました。

船橋市前原商店会、津田沼一丁目商店会、かし熊、榊原、地元の有志の皆様から義援金、義援物資をお預かりし、南阿蘇村へお届けいたしました。



28年7月18日(月)

熊本県南阿蘇村「久木野温泉 四季の森」にて被災者に元氣をお届けする「被災地復興支援マゼロ解体ショー」を開催いたしました。

マゼロ解体を行って頂いたのは、名物ガッツおじさんこと、嵯峨完三がみつる氏。宮城県仙台出身で自身の故郷も東日本大震災で流された経験から、被災地に向けてガッツを届ける「マゼロ解体ショー」を被災地で継続して行っています。

この度、熊本県では初となる33回目を行いました。お忙しいところ南阿蘇村長もお越し頂き、被災者の皆様へ励ましのお言葉を頂戴する中、続々と200名以上の方々がご来場くださいました。

解体後はマゼロ井をみんなで頂き、「新鮮おいしい!」と喜びの声をたくさん頂きました。南阿蘇村役場の皆様、また四季の森のスタッフの皆様、大変な時期に多くの方々にお声がけ頂き、また、たくさんの方々にボランティア



小学校におけるいじめの解消率も向上しております。

また、平成27年度の小学校スクールカウンセラーの相談件数、12, 378件のうち、不登校に関する相談が2, 085件あり、教育委員会としては各学校におけるいじめや不登校の対応に、有効に活用されていると認識しております。

**長野** 相談件数が多く、有効に活用されている認識があるとのことだが、多くの相談を受けなければならぬスクールカウンセラーへのフォロー体制はどうなっているのか。

**教育委員会指導課長** 教育委員会ではスクールカウンセラーを配置するとともに、研修会を年2回開催しております。この研修会において、カウンセラー技術のスキルアップを図るとともに、カウンセラー同士の情報交換も行うことで、お互いの悩みや不安などを共有する機会を設けるなど、カウンセラーのフォローに努めております。

**長野** 平成27年度の活動を踏まえ、「チーム学校」の一員としてのスクールカウンセラーの活動について、今後の展望を伺う。

**教育委員会指導課長** 現在でも、教職員にカウンセラーが同行しての家庭訪問を実施しているところではありますが、今後は、さらに積極的な家庭訪問の実施、いわゆる「アウトリーチ型支援」を推進してまいりたいと考えております。

ご意見・ご要望、市の施策に対するご質問をお寄せください!

議会や委員会でご取り上げてほしい事項がありましたら、お気軽にご相談ください。議会・委員会での質問や要望は市の事業に係るものとさせていただきます。

その他、国や県に対するご要望・陳情も、お寄せください。

**FAX:047-474-4719**  
**Email:harunobu@choshunkai.jp**

※必ずお名前とご連絡先をご記入ください。

**長野春信**

<http://choshunkai.jp/>

携帯からもアクセスできます!

**ながの春信 政務事務所**

TEL:047-474-4718

〒274-0825 千葉県船橋市前原東1-16-1 ベルメゾン1F